

熊本市出身の映画監督 山田武さんにインタビュー



▲山田武監督と妻でプロデューサーの恭子さん。
恭子さんは映画音楽も手掛ける。同じく熊本市出身。
「阿蘇の皆さんと一緒にこの映画をつくっていき
たい」と地域力ある映画を目指されています。

昭和初期の阿蘇が舞台。母と子の愛情を描いた小説が映画化！

映画「母しやんの子守唄」（仮称）の撮影が阿蘇で行われることが決まり、映画のスクリーンを通じて全国の人たちに阿蘇の美しさを伝えられる絶好の機会となりました。

そこで、この映画のメガホンをとる、熊本市出身の映画監督、山田武さん（47歳）にお話を伺いました。

Q. どんな映画が撮影されま
すか？

簡単なあらすじは、昭和元年、身寄りのない女性が阿蘇（宮地）に嫁ぎ、慣れない阿蘇での暮らしや戦時の困難の中にも、息子とたくましく生きて

いく話で、貧しいながらも、我が子に礼儀や人としての道理を教え続けた母親。母を気遣い教員になることを悩む息子、関わる人々……。この美しい阿蘇を背景に人々の絆が描かれます。

原作は、一の宮町出身の教育者、丸木政臣さん（85歳）（東京都在住）の自伝的小説「母しやんの子守唄」です。

Q. この小説を映画にしよう
と考えた理由は？

この作品は当初、名匠・木下恵介監督が以前から思いを寄せておられた作品で、この度ご縁があり、そのご遺志を継ぎ、私が映画を製作することになりました。

この作品で、何を皆さんに伝えたいのか？なぜ今、親子の絆なのか？という部分です

が、私が子どもの頃に肌で感じた、近隣の方々との関係や親子関係が近年少なからず変化しているように思うからです。代々培われた日本の情緒と言いますか、貧しくとも礼儀や相手を思いやる心を忘れないう、真の人間らしさを、もう一度見つめなおしたい。現在の社会情勢を乗り越える力を皆で培い確認することは、とても価値があることではないかと思うのです。

Q. 阿蘇は「映画ロケ地」の素材
としていかがでしょうか？

今、全国で映画ロケを誘致する活動が展開されています。映画のロケ地は観光客にも人氣で、撮影のセットをそのまま残して、観光スポットとするなど、地域の活性化につながっているようです。

阿蘇は、全国どこにもないロケーションですので、本格的な撮影の場として、全国、世界中の映画監督にアピールしてもいいと思います。それだけの素材はあります。

私が撮影する今回の映画のセットも、昭和初期を感じる

建物をつくつて作りませんが、ぜひ、そのまま残して、今後の阿蘇市発展にお使いいただくことも考えています。

Q. 地域の元気が映画を大きくするという例がありますか？

まさにその通りです。最近では茨城県民が数年かけ活動し製作に至った「桜田門外ノ変」があります。積極的な活動で、規模が当初より拡充し、すばらしい作品となりました。住民の思いもあるので、公開が終わった今もその雰囲気を保ち、県の新たな見どころとなっています。

阿蘇は九州の中心。そして阿蘇は九州の命を支える河川の源です。そういう意味でも阿蘇からの発信は意味があると思いますし、ぜひ、この映画に限らず映画での地域おこしを考えてみられてはいかがでしょうか。

Q. 今後のスケジュールは？

撮影は、本年から本格的に行います。公開は来年の予定です。

福山雅治さん・武田鉄矢さんと呼ぶ “3万人ラブレター” 作戦

報告!

「皆さんに書いていただいた手紙を
事務所にお渡ししました！」



NHKの大河ドラマ「龍馬伝」での坂本龍馬ブームにあわせ、阿蘇市でも、坂本龍馬と勝海舟が歩いた豊後街道でまちおこしを図ろうと、坂本龍馬役の福山雅治さん、勝海舟役の武田鉄矢さんを阿蘇市に呼ぼうという作戦が、昨年7月20日～11月末日まで展開されました。

昨年4月、福山さんや武田さんのファンやまちおこしに協力したい人たちが集まり、阿蘇市観光協会を事務局に、二人を呼ぶ会を発足。目的は、多くの人が豊後街道と阿蘇の歴史を改めて認知し阿蘇の宝を再確認する事。一つの目標を市民みんなで作り上げるという気運を高めること……。

阿蘇市民の熱意“3万人のラブレター”を二人に届けよう!という活動が7月20日にスタート。商店街や施設、学校など広い範囲で展開され、多くの市民の皆さんがラブレターに協力しました。

その作戦も11月末に終了。集まったラブレターは、6,601通。3万人には届きませんでしたが、お手紙は二人の事務所へ渡してきました。今後何か動きがあったら阿蘇市観光協会ホームページ上で報告するということです。

今回、3万人ラブレターのほか、阿蘇火山博物館で「龍馬とジオパーク展」開催、うちのまき案内人協会「海舟&龍馬散策案内」開始、「龍馬・海舟足跡現地めぐり」、「豊後街道シンポジウム」開催など様々な行事が「人々の力とアイデア」で行われ、阿蘇市も大いに龍馬ブームに乗りました。



やまだたけし

山田武氏 (47歳)

熊本高校卒。早稲田大学在学中に演劇活動を始め、美輪明宏氏の舞台にレギュラー出演。演技講師、脚本、演出も手掛ける。2002年、舞台から映画に転向。九州や熊本を舞台にした作品を数本、企画中。

まるき まさおみ

丸木政臣氏 (86歳)

一の宮町出身。熊本師範学校卒業。陸軍入隊、戦後家事に従事。熊大付属中学で教鞭をとり、その後、私立和光学園(東京都)の校長、園長、理事長を勤め、現在顧問。「ペスタロッチャー教育賞」受賞。著書多数。

Q. この映画を支援する会が
設立されていますが。

地方で映画を撮るとどうしても制作費がかかってきます。制作費を削減するため、映画村や専用スタジオでの撮影も考えましたが、愛してやまない阿蘇の地ですべて撮影することは念願でありましたので、資金面に苦慮しながらも撮影に挑んでいるところです。現在、この映画を支援する

会が設けられまして、映画に賛同いただいた企業や団体、個人の方から、協賛や寄付をいただいています。阿蘇市の皆さまにおかれまして、どうか、この映画にご理解いただきご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。特に地元の方々には、炊き出しや、設営などのご協力をいただければ、大変うれしく思います。

【寄付金・協賛金のお申し込みについて】

郵便振替口座

口座番号 01740-7-47726

加入者名 「母しちゃんの子守唄」支援会
肥後銀行(宮地支店)

口座番号 普通1374377

株式会社Ryun 映画基金口
熊本ファミリー銀行(宮地支店)

口座番号 普通2110902

株式会社Ryun 映画基金口

【問い合わせ先】

九州事務局 (一の宮町宮地2356)

☎050-5805-4701

【ホームページアドレス】

<http://www.shienkai.com/>